□連載小説

異人館物語〈最終回〉

ジェームス山哀歌

小山牧子
え・石阪春生

あらすじ　明治時代といえば多くの異国人が神戸に移り住み、西欧文明を背にして活躍した頃だが、E・W・ジェームスもその一人で、兵器売込みでもうけた金で塩屋の山を外国人居住区として開拓していった。そんなジェームスの雇用人の中に、中井ふさの姿があった。

戦後、手のほどこしようもなく荒廃したジェームス山の復旧に全精力をそそぎこむジェーム老の傍には、亡き妻の代りに彼にぴったりと寄り添うふさの姿があった。しかし長い屈辱と孤独の日を耐えてきたふさに訪れたしあわせの日々も長くはなかった。ジェームスの突然の死――ふさが半生の忍耐と献身によりようやく手中におさめたバラ色の老後は、無残に断ち切られたのだ。

暗く尾羽打ち枯らした状態で、中井ふさはジェームス老の死後、九年間を生きた。五十歳になったばかりとはとうてい見えぬ老惨の姿は、すでに戦前の自然の美をとりもどしたジェームス山の点景として、人々の口の端にのぼったことは前述の通りである。

館に水を運びあげる仕事以外に、生活費を稼ぐ仕事もおろそかにできないふさは、同じ山の外人屋敷でメイド勤めをしていたのであったが、酷しい労働に明け暮れる日々に、ふさの肉体は次第にむしばまれてゆき、ついに病いの床に伏す日がきた。病名は助膜炎。貯えとてないふさは翌日から生活に窮し、迫害に堪えながら守り通した館を手離すことを余儀なくされた。でなくとも、身体の衰弱したふさには、もはや山の麓から用水を荷いあげることなどできはしない。

ふさが山頂の館を去った日は、昭和三十四年の秋も深まってからだった。

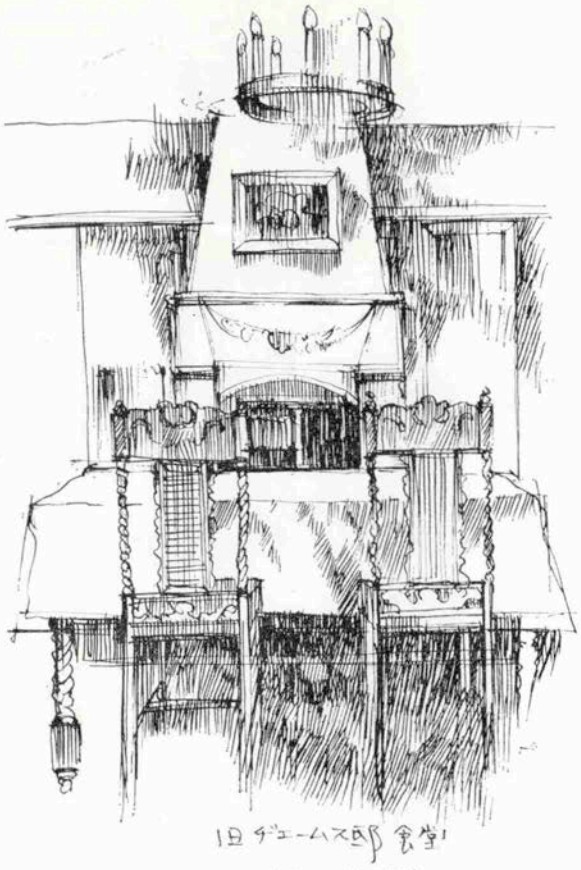
ジェームス老が丹精こめて育てた桜並木の裸の枝のむこうに、濃紺にさえる海が広がり、澄んだ日ざしの中で、対岸の紀州の山並がくっきりとした稜線をみせている。そして、足もともおぼつかないふさに、ジェームス山の紅葉が、自然がなれ親しんだ人に与える今生の別れの言葉にも似た華やいだ翳りを落としていた。この山を、人と獣と鳥たちの楽園として豊饒ならしめたジェームス老すでになく、彼のかたわらで女王のごとく君臨した中井ふさは、病み衰えた姿でいま山を降る。

「旦那様、若い日のすべては夢、幻でございましたなァ」

ジェームス老の唯一の遺産、館を手離したふさに、過去のたしかな手ざわりはない。

追憶にひたることを止めぬ中井ふさのやつれた肩先に、病葉が数葉、寂々と散りかかった。

彼女が、その生涯を閉じたのは翌三十五年八月二十六



日、無一文で身を寄せた実姉の嫁ぎ先、垂水区塩屋町字西の田百二十一番地、ジェームス山の山麓に位置し、彼女がなれ親しんだ外人屋敷の中にあってはなんとも見劣りのする陋屋の日当りの悪い一室でだった。

死の床にあるふさの枕頭を振動させるかのように、容赦ないブルドーザーの音が響いていた。ジェームス邸が、山陽電鉄会長、故井植歳男氏に買い取られたのと前後して、周辺の広大な土地もまた山陽電鉄の所有と帰し、ここに開発の魔手がのびはじめたのである。かつて、ジェームス老がゴルフ場として買い取った土地に、常時三台のブルドーザーが入って土を掘返していたのだ。

ふさは、この開発の音に神経をとがらせ、意識がときれがちになってからも、目に見えぬ巨大な敵にむかって牙をとぎ、うわ言を言い続けた。

「あかん、あかん。止めてんか……それ、ジェームスさんや。ジェームスさんの身体、堀り返してどないするねん。痛い、痛いやおまへんか。ア、ア、ア、痛ァ、痛ァ……」

生涯、彼女に好意を示さなかったE・H・ジョンソンを恨み、余生がみじめであればあるほど亡きジェームス老とのかりそめの愛のまじわりを生涯にかかげる唯一の誇らかな旗とし、その身の不遇のゆえに献身をささげながら報いられるものが少かったジェームス老をも呪詛する反面、更に思慕と執着をつのらせる哀切かぎりない命の終りだった。

中井ふさ　享年五十三歳

中井ふさの死後、かつて彼女の所有だった山頂の館はある日本の資産家に買い取られたが、場所の不便さもあって廃屋となっていたところ、ある夜、火災を起し瞬時にして灰塵と帰した。出火原因は不審火で、一説には心ないハイカーの煙草の火の不始末であったといわれている。冬の一夜、漆黒の天の端を火照らせて吹きあがる火煙に気づいた人々は、その炎の色に目を奪われながら、一様にかってそこに生きた薄幸の女の姿を重ねあわせたものだった。

夜の天を焦がし、陰々と燃える炎は、この山の開発に野心を残したまま夭折し、無念至極の心を抱いて彼岸にあるE・W・ジェームスと、彼に生涯の献身をささげた中井ふさの怨念にみちた魂が昇華する野辺の送り火ではなかったろうか。否、それ以上に彼等が生きた古きよき

時代の終焉を告げる聖火であったともいえる。まさに、その山頂の館の炎上を機会にして、塩屋の地は一つの時代を終えたのである。

E・W・ジェームスと中井ふさ。二人の異った民族の男と女の異った呪詛にまといつかれながら館が炎の中にのみつくされてからも、すでに数年が過ぎた。その間、ジェームス老が予測した通り、戦後日本の経済復興は順調に進み、工業化社会の発展にともなって、日本の都市は未曽有の繁栄を謳歌するにいたった。大衆消費社会、GNP世界第三位、勤勉な日本の民族は、かつての貧しい生活からは想像もできなかった花の階段を、がむしゃらに働くという行為で駆け登ってゆく。

しかし、この繁栄の余波としてある悪い影響を、塩屋界隈もまた、もろにかぶることになった。というのは、かつてひと握りの富豪によって独占されていた塩屋海岸は、山を切りくずし、谷をうずめ、そこに繁栄社会の恩恵を受けた庶民が、せせこましいマイホームを作りはじめたのである。それは決して悪いことではない。が、この地にひしめきあって住みはじめた彼等の生活のアカをのみ込み、更に神戸港沿岸にある工場から排泄する工業排水に汚された海の惨状は、神戸ッ子のだれもが知っていることだろう。

生前のジェームスが館からの眺望をこよなく愛した塩屋の海は、日本の都市と対峙する海がすべてそうであるように、黒灰色にうねる死の海に変った。そして、そこからたちのぼる海の腐臭——。彼岸にあるジェームス老のシシ鼻が、もしその海の腐臭を嗅ぐことができるならば、

「ガッデム・ジャップ!!」

とかなんとか、例の悪態をついて怒るのではないだろうか。

ジェームス山周辺は、彼の生前にあった姿から大きく変貌した。現在も外国人の居住地となっている山一つを緑に残して、周辺の山はすべて切りくずされ、まるで大地の血まみれな傷のように赤土の地肌がむきだしになっている。そのさまを極言するならば、かって異国人ジェームスが山の緑を繁らせたその一点は、荒寥とした風景の中にこんもりとふくらむ緑のオアシスの観を呈し、その地はいまもまた、ひと握りの外国人居住者によって占有されているのだ。

緑に盛りあがるオアシスの周辺の山を切りくずしてできた台地には、自分と家族の幸福だけを願う一生懸命な日本の庶民が住みはじめた。いわゆるマイホーム時代の到来である。

画一的な家と小さな庭。他の先進諸国の民がワインを楽しみ、談笑し、午睡をむさぼっている間に、粗衣、粗食で働き通し、かろうじて守り抜く彼等の砦である。

ところで、この砦の住人たちの一生懸命さは、時々、むこう見ずな行動に走らせ、周辺の新しい管理者になった塩屋土地株式会社の職員を当惑させるらしい。

自分達の血と汗の結晶として築いた砦に、豊かさのミニアチュアを取り揃えた日本のトオチャンとカアチャン共は、次には自然のミニアチュアを欲しがってか、日曜日の白昼、堂々と山の若木を掘りにでかけたりするのである。中には、植えたばかりの街路樹の楓の苗木を掘り返している馬鹿もいる。で、たまりかねた管理人がとがめると、

「うちの庭に楓の木が一本、欲しいおまんね」

と、悪びれたふうもないところ、まったく日本人的ではある。

塩屋、垂水周辺の新興住宅地の夜の眺めはすばらしい。漆黒の闇の中に、一つびとつが無限の喜こびと悲しみを秘めてまたたいているような小さな灯が群がりかたまりあい、まるで丘全体、谷一つが火を放ったように明るんでいるさまは、見るものに、強い感動を呼び起こさせる。

その灯の丘、灯の谷は、かってジェームス老が人と自然の調和を願って、彼の財力のすべてを投じた塩屋周辺

の土地が、人間に支配されつくしたことを意味する。

が、夕暮、大地のカサブタのように丘をよじ登り、谷をうずめつくす新しい家の聚落に視線を投げた人々は、何十年かのち、必ず姿を現わすであろう、その画一的で小さな家々のひしめきがスラム化したさまをそこに重ねあわせ、背筋にうそ寒いものが走るのを禁じえないであろう。

この視界の限りまで続く灰色の屋根と、人々の営みが吐きすてる悪いガスに包まれた平原に熟れた陽が堕ちてゆく風景は、なんと哀愁にみちていることか。ノクターンの調べが天の一角から響き渡りそうなジェームス山の暮色。が、筆者はなぜか、その瞬間、この新興住宅地の上に広がるボロ屑のような雲を散りばめた空と、腐ったトマトに似た真紅の太陽からの陽のしたたりを受けてチャコールグレイに縮かんでゆく遠景の特に秋の街が好きだ。

ジェームス山の高台に立つと、ノクターンの調べと共に、かの古き良き時代を生き、逆境の中で死んだ中井ふさの切々たる哀歌が聞こえてきそうな気がするし、老ジェームスの罵声が風の音になって地を這っているような気がする。否、覇を共に競ったフロンティアの末裔たちのすべてが土と化したいま、老ジェームスの魂は、死の海に囲まれ、傷痕とカサブタにみちてゆく日本の風土に愛想をつかし、すでに故国の空にさまよい還ったかも知れない。彼にとっては魂の祖国イギリスの抒情詩人、ウォルター・スコット（一七七一～一八三二）の挽歌の一節を口ずさみながら……。

秋風すさびて　すでに枯れし
　木の葉の群れを吹き散らせど
われらの花は花ざかりに
あわれ蟲ばみて凋み果てぬ

岩山の上に　速き脚よ
　煩はしきにも　聡き智恵よ
敵を侵して血ぬる刃
君の眠りの　何ぞ深き！

たとえば　はかなき山辺の露
　流れに浮かぶうたかたか
泉に湧ける水の泡か
君は逝きたり　とこしえに！

（完）

☆新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

〈7月号予告〉

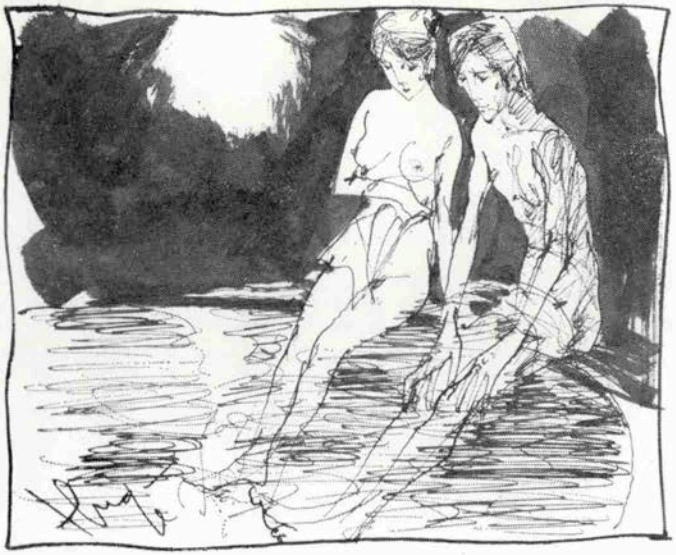
☆グラビア「女の四季」⑤有馬稲子
　〃　「万葉記」④犬養　孝
　〃　「And His Ladies」
　　貝原六一
　〃　「私の散歩道」
　村社講平、小高根二郎、土井貞枝
☆特集　祇園まつり
　（カラー・グラビア・対談・イラストマップ）
☆商売の最前線　「ナガサキヤ」
☆激動のアラブを行く⑧
　エジプト　林　辰比古
☆「織田作之助伝」⑰　大谷晃一
☆「播州歴史散歩」⑤　姫路（下）
　　黒部　亨
☆「競馬酔狂伝」⑤　新橋遊吉
☆この人　この時　横塚　繁
　　福村　芳一
　　多田智満子
　　小西ヨシ子

月刊オール関西編集部
大阪市北区梅ケ枝町80　梅新東ビル7F
TEL　06—364—2434～7（代）

連載小説〈40〉

曲線ハイウエイ

武田繁太郎
え・横塚繁



〔あらすじ〕 東名高速サービスエリアで**多木洋介**は神戸の女性**宇津康子**と知合い、逢瀬を重ねるうちに康子にひかれていった。ある日友人**岡本和彦**と共に神戸へきた多木は康子に会えず、彼女の面影に似た**辰野英子**を紹介され、六甲山へドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、初めて感じるいとおしさがつのり、その夜二人は愛しあって別れた。

そんな時突如として康子から電話があり、多木と康子は二人の愛を確かめあった。翌朝、風のように去っていった康子を追い神戸にきた筈の多木は、岡本の早呑み込みと神戸の雰囲気の中で英子を捜している自分に気付いた。英子をみつけた多木は淡路島へのドライブに出かけたが、その帰りに中年の男と寄りそって歩いている康子を目撃した。その衝撃を負って帰京した多木のもとに康子からの屈託のない電話が入った。十日間の休暇をえた多木は、北海道へのドライブに康子と出かけ、札幌から海岸沿いの国道を通り、さいはての村島牧に向った。その村は、難病にかかった象の花子が温泉で闘病していることで、かつて新聞に報道されたことがあった。

宮内温泉についた二人は、花子を見舞い、花子の世話をしているS氏と親しくなった。翌日二人は村内の見物に出かけ、S氏に教えられたジャスパのある浜に遊んだ。

茂津多岬から宮内温泉に戻ると、二人は、温泉で旅の疲れをいやした。

宿のひろい浴場には、丸い大きな浴槽がふたつならんでいて、浴槽の一隅に、トタン板で囲ったべつの浴槽があり、これは、婦人用のようであった。

だが、今夜の泊り客は、多木たち一組だけである。二人べつべつに入浴することもなかったので、康子も男湯のほうを使うことにした。

二人は、丸い浴槽のふちに頭をならべて、湯に浸った。温泉は透明で、多少ぬるめだったが、のんびり温泉気分をたのしむのには、快適な温度だった。

康子が手をのばして、多木の手を握ってきた。多木も

握りかえし、そのまま、ゆっくりと身体をのばして、目をとじた。

瞼の裏に、さっき茂津多岬の海岸で、自分に背をむけて、なぎさのほうへ歩んでいった康子の後ろ姿が、浮びあがってきた。

なぜともなく、あのとき、二人の愛の終りの間ぢかな気配を、多木は、その後ろ姿から感じとった。

たしかな根拠はない。いわばそれは、多木のカンのようなものであった。不吉な予感のようなものだといえた。

だが、愛とは、いったい、なんだろう？　多木と康子をいままで結びつけてきたその愛とは、なんだったろうか。

自問してみると、多木には、しかとは答えられなかった。わかっていたようで、わからなくなった。いや。わかっていたと思っていたのは錯覚で、さいしょから、わかってはいなかったのだ。そんなふうに思えてきた。

多木も康子も、都会育ちであった。都会暮しであった。都会の生活に馴れきっていた。都会の喧噪と享楽と華美のなかに、多木は、愛のほんとうの姿を見失っていたのではないか。多木が愛だと思いこんでいたものは、じつは、装われた虚飾の愛の姿ではなかったのか。

多木は、自然のほんとうの姿も知らなかった。このさいはての村にやってきて、はじめて、自然の実体の一部にふれたように思えた。ほんとうの愛もまた、地のはてまで行かねば探しもとめられないこの自然のようなものではないのか。

「さっき、茂津多岬で、君は、ジャスパを探しに、なぎさまでおりていったね？」

多木は、湯のなかで、康子の手を握ったまま、思いだしたようにたずねてみた。

「ええ」

康子も、目をとじ、浴槽のふちに頭をもたせかけたまま、うなずいた。

「ジャスパ、あの海岸にあったかい？」

「みつからなかったわ」

「この島牧の海岸でも、ジャスパは、どこにでも転がっているわけじゃなかったんだな」

「そうらしいわ。やっぱり、あの江の島の海岸だけにしかないのね」

康子は、ちょっとさびしそうな声で言った。

愛というものも、あの瑪瑙のように美しい小石に似て、どこにでも転がっているものではなかったのだ。

ひっそりとした、ひろい浴場で、三十分ほどもゆあみして、二人は、部屋に戻った。

夕食にまぢかかった。二人はS氏を夕食に招くことにして、宿に連絡してもらった。

S氏は、札幌の家族と別れて、象の花子を相手にこの島牧で独り暮しをしていた。食事はむろん自炊で、それも、一日三食とはきめず、腹がへったら食べるといった不規則な毎日だと言っていた。そういうS氏を、多木は、いくらかでも慰めたいと思ったのである。

S氏もこころよく招きに応じた。夕食の膳が運ばれたころ、湯あがりの火照った顔で、S氏は、インスタント・コーヒーの空瓶になにかをつめたものを二個ほどさげて、二人の部屋にあらわれた。

「どうもお呼びいただいて恐縮です。これ、手製の塩辛とわさび漬けです。ここでとれたものです」

そう言って、S氏は、酒の肴にすすめた。

「ここは、わさびもとれるんですか」

「ええ。裏の山のすこし奥のほうにはいれば、いちめん白い花を咲かせて群生している個所があるんです。天然ものです」

わさびといえば、いわゆる深山幽谷の清流に生えているものと多木はきいていたが、そのわさびが群生しているほど、この村そのものが深山幽谷だったといえたのだろう。

S氏手製のわさび漬けは、酒の粕に漬けたものではな

く、ただ根と葉をこまかく刻んだだけの即席漬けで、それだけ、わさび特有の新鮮な香が、ツーンと鋭く鼻を突いてきた。

塩辛のいかも、ここの海で獲れたもので、いきいきとした光沢にかがやいていた。食膳にも、島牧の海の幸、山の幸がにぎやかにならべられてあった。とくに、生のあわびの切り口があざやかだった。

「あわびはね、海岸の岩の割れ目のようなところを探すと、手づかみで獲れますよ」

「あわびの手づかみ？」

多木は、呆れたようにききかえした。

「ええ。手づかみです。おもしろいのは、たこですな。満潮のとき、たこが沖から海岸の岩間へ遊びにきて、貝などをたらふく食って、眠りこけてしまう。そのうち、潮がひいて、沖へ帰れなくなる。まごまごしてるところを、これも手づかみです。たこが食い荒した貝がらがちらばっている岩があると、その割れ目には、かならずやっこさんがひそんでいますな。滑稽なやつですよ」

多木も康子も、思わず吹きだしてしまった。もともと、自然というものには、こうしたユーモラスなおおらかさといったものがあったのだろう。だが、人間の心は、自然から遠ざかることによって、このおおらかさも同時に失っているように多木には思えてきた。

「花子嬢はもう寝ましたか」多木は、S氏に銚子をすすめながらたずねた。

「いやいや。わたしが帰るまで、寝ないで待っていますよ。いつも、そうです」

S氏は目を細めるようにして言った。

助手の青年は通いなので、もう帰宅している時刻だった。花子は、暗い小屋の寝わらのうえにごろんと巨体をよこたえ、好物のリンゴでも食べながら、S氏の帰りを待っているのだろう。

「象は賢い動物です。ある面では、人間よりずっと賢いといえるかも知れません。わたしも花子に教えられるところがいっぱいあります」

S氏は述懐するように言った。

「ときたま、わたしが札幌などへでかけて、帰ってきますね。留守番の助手の話だと、わたしの車が四、五キロさきの役場あたりまでくると、花子は聞き耳をたてるように、あの大きな耳をばたばた動かすというんですね。人間にはわからないが、花子には、わたしが帰ってきたことがちゃんとわかるんですな」

「動物特有のテレパシーですか」

「それ以上のなにかかも知れません。花子は、はじめて会う人間でも、その人が自分に好意を持ってくれているか、悪意を持っているか、たちどころにみわけますね。彼女の態度でわかります。人間がいくらつくろって

も駄目です。ごまかしは通用しません。花子は、人間の心の奥底まで見抜く、おそろしいほどの眼力を持っているんです。それは、彼女が邪悪な心を持たない、澄んだ目の持主だからかも知れませんな」

S氏は熱っぽい口調で話した。

「動物はものをしゃべれないと言いますね。言葉をしゃべれるのは、人間だけだと言いますね。だけど、それは、人間が勝手にそう思いこんでいるだけなんですよ。象にはちゃんと象の言葉がある。犬には犬の言葉がある。この島牧は小鳥の天国で、五十種類もの小鳥たちがにぎやかにさえずっていますが、彼らも彼らの言葉でさえずっているんです。ただ人間のほうで、彼らの言葉を理解できないだけなんですよ」

S氏の話には、S氏独得の説得力があった。

「わたしも、花子と六年間いっしょに暮してきて、ようやく花子と対話できるようになりました。さいしょのころは、花子はわたしの言葉を理解できるのに、わたしは花子の言うことがわからない。つくづく、人間て愚かな動物だと思い知らされましたね。花子のほうがわたしよりずっと賢い。そう気づいたんです」

「なるほど。人間は、動物の言葉を理解できないから、動物はしゃべれないと思いこんでいるわけですね」

「人間の思いあがりですよ。かつては、人間も花子のように、邪悪な心を持たず、澄んだ目を持っていた。それが、知恵を持ち、言葉を持ち、科学だの文明だのといったものを持つにつれて、もっともたいせつな、なにかを失っていった。気がついてみると、人間は象よりも愚かな動物になりさがっていた。わたしには、そんなふうに思えてなりませんな」

「じゃ、どうすれば、人間は救われると思いますか」

「動物はみな、自然のままに生きています。自然の命ずるまま、素直に、従順に生きています。人間もまた、謙虚な気持ちになって、一日も早く、自然のふところに帰ることですよ。まちがっても、自然を征服したなどといった不遜な気持ちを持たぬことです。そうでなければ、人間は、いまに、自然から手痛いこらしめをうけますよ」

S氏は、確信をこめたように言った。

〈神戸の催し物7月ご案内〉

＜音楽＞

★コンサート　赤い鳥飛立つ！
7月2日（月）開場PM6：00　開演PM6：30　西宮市民会館　¥1,000　¥800　出演／赤い鳥、ニュー・サウス・リバイバル

★杉田二郎・井上陽水・バズ
7月3日（火）　PM6：00～PM8：00　神戸国際会館　民音　会員券　¥700

★「森の歌」の夕べ
7月4日（水）　PM6：30～PM8：30　神戸国際会館　労音　会員券　¥1,400　曲目／歌劇「魔弾の射手」序曲、カルメン組曲、オラトリオ「森の歌」演奏／大阪フィルハーモニー交響楽団　指揮／外山雄二　合唱／神戸フロイデ合唱団、神戸放送児童合唱団

★欧陽菲菲ショウ
7月6日（金）　①PM2：00～PM4：00　②PM6：30～PM8：30　神戸国際会館　民音　会員券　¥950

★NHK交響楽団演奏会
7月9日（月）PM7：00～PM9：00　神戸国際会館　A¥2,000　B¥1,700　C¥1,400　D¥1,000

★秋山大フィル"海の交響曲"
7月15日（日）　PM2：00～PM4：00　神戸国際会館　会員券　¥1,000

★第9回民謡のつどい
7月17日（火）18日（水）19日（木）　AM9：30～PM4：00　神戸国際会館　¥300

★レン・チャンドラー平和を歌う
7月20日（金）　PM6：30～PM9：00　神戸国際会館　労音会員券¥1,300　¥650（高校生以下）　曲目／人間であるために、耳の中の豆、貴方の眼のおくに他

レン・チャンドラー

★ザ・ベンチャーズ
7月21日（土）　PM6：30～PM9：00　神戸国際会館　A¥2,400　B¥2,000　C¥1,700　曲目／ダイヤモンド・ヘッド、10番街の殺人、朝日のあたる家他

★アリスとザ・ムッシュ
7月25日（水）開場PM1：00　神戸海員会館 市民小ホール　S¥900　A¥700

＜演劇＞

★金井彰久プロデュース作品「北斎漫画」
7月23日（月）24日（火）25日（水）PM6：15～PM9：00　神戸国際会館　労演　会員券¥800　出演／小沢栄太郎、緒形拳、渡辺美佐子他

★ロロの大冒険――児童劇――
7月29日（日）30日（月）　①AM10：30～AM12：15　②PM2：00～PM3：45　神戸国際会館　A¥800　B¥600　C¥500

＜その他＞

★民音落語会　怪談噺し
7月12日（木）　PM6：30～PM8：30　神戸国際会館　民音　会員券　¥700

★花柳芳恵一子リサイタル
7月27日（金）PM3：30～　神戸国際会館　¥2,500

愛読者サロン

★五月号は、第三回神戸まつりの前奏で、祭りの本質に帰ろうとする心のふれあいで、楽しい空気につつまれていました。
中西美代子氏のファッショナブルな姿と文はたのしいでした。
（宝塚市　丸木明子）

★毎号楽しみに読ませてもらっています。筒井康隆先生のマイ・コウベ小さな（ちょっと尖孔かな？）穴場のぞいてみたくなります。先日、北海道へ引越した友達より、神戸へ帰りたいとの便りあり。神戸のかおり「神戸っ子」を、送ってあげようかと思っています。
（神戸市　よし子）

★神戸に住んで3年、ひたすら神戸っ子になりたいと願ろ、シンマイ神戸っ子です。さわやかな陽ざしにさそわれて、須磨の浜で、ついウトウト、気がついてみると、真黒になってしまいました。編集部の皆さん、たまにはポケーとするのも、いいものですよ。これからも楽しいお店、おもしろい話の紹介、どんどんやって下さい。
（神戸の好きなタミー）

★独身時代楽しんでいた「神戸っ子」に結婚して久し振りに対面。育児にかまけてオシャレ心もどこへやら。三宮の方にもとんと、ごぶさたの私ですが、表紙の女性像に、広告の写真に本文のさし絵にと、もっぱら今は見るだけですが、神戸のにおいにあふれた御本に、なつかしく、うれしく再会しました。神戸にいて、神戸をなつかしむ心で一杯です。今夜、子供の寝た後の私の時間は、「神戸っ子」と共に……と今から、わくわくしている私です。
（長田区A・A）

発行にいろいろお世話いただいた方がた

安部正夫
朝比奈隆
青木重雄
砂野豊彦
乾
石野信一
石野成明
榎並正一
牛尾吉朗
岡崎真造
小曽根忠
小野一夫
大淵ツトム
金井元彦
嘉納正治
嘉納毅六
柏井健一
小磯良平
小林芳夫
小泉徳一
小林秀雄
上林英一
後藤末二
古林喜楽
坂井忠
阪本時勝
白川昌之介
雀部渥
新谷秀雄
塩路義孝
砂田重民
竹中郁夫
角南猛
滝川清一
滝川勝二
田宮虎彦
田中健一郎
玉井操
竹馬準之励
外島健吉
直木太一郎
西脇親弘
中巻
中西難波還
南部圭三
野沢幸二郎
畑専一郎
深水惣吉
福冨芳美
松井高男
宮崎辰雄
宮地襄二
村上正二郎
百崎辰雄
行吉哉女
神戸青年会議所

編集後記

★第三回神戸まつりは、五月晴れの神戸の街のあちらこちらで、自由な発想の中から、それぞれの趣好をこらして花が開いた。フラワーロードでも、王子球場も、湊川公園でも明舞団地でも……。子供から若ものおかあさんから、お年寄り迄。そして、中国あり、インドあり、アメリカあり、韓国ありetc……。世界中の人々が加って。色んな人間が交流して神戸まつりの中から、新しい神戸のオリジナルが生れてくるだろう。今から来年が楽しみだ。
（小泉　康夫）

★もう、今から来年はどんな衣装で踊ろうかとアイデアを考えている人がいる。神戸まつりは、ファッション都市をめざす神戸のドラマティックなアクションフェアだ。
（小泉　美喜子）

★編集終ってみんなで飛騨の高山へ。その晩泊った駅前旅館では誰かのいびきの生演奏で朝まで寝られず。でも翌日歩いた高山の町とおみやげに買った漬物はとてもおいしかったのです。
（橋本　明）

★六甲越えの道案内をお願いした山本隆夫・北野信一両君に感謝します。六甲の山道よりもアスファルト・ジャングルの舗装道を歩くのに疲れる今日この頃です。（蔡　裕勝）

★松岡先生、桑原さんに案内していただいての六甲登山。絶好の新緑で靴ずれの直りかけた今、また登ってみたくてウズウズしてます。
（西口　恵子）

★神戸に帰って来てはや二カ月とちょっと。だいぶKOBEのことを覚えたつもり。それにしても会いたい人には全然会えず、神戸は広いねえ。
（中村　雅子）

★編集長の発案で七月号の特集が、「六甲縦走・決死の登山隊」に決まった時には真青。遭難予報が乱れ飛んだんですが、どうやら全員無事生還。ザンネンでした。
（井上　久代）

神戸っ子ごあんない

★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達に、神戸の香りをおとどけになりたい方は、編集室あてにお申込み下さい。さっそくお送りします。

6カ月分　一二〇〇円
1年分　二四〇〇円（送料共）

★月刊神戸っ子に紹介されている神戸の銘店には、お客さまへのサービスとして神戸っ子がおかれています

★月刊神戸っ子をお買求めの時には左の本屋さんへどうぞ。

コウベブックス　さんちかタウン
ニュー漢口　京町筋
漢口堂　湊川商店街
流泉書房　センター街
文洋堂　新聞会館1階
日東館　大丸前
海文堂　元町通3丁目
宝文館　貿易センター店
甲南文堂　元町通5丁目
小原光　国鉄北口
隆司書房　国鉄住吉駅北口
文進堂書店　新開地本通り
木村書林　垂水銀座通り
神戸書林　明石市桜町
秋田百文堂　板宿バス停前
南天荘　長田・神戸デパート前
ラン書房　阪急六甲駅2階
　　昔合区布引町4丁目

★月刊神戸っ子に広告を掲載ご希望の方は編集室へお申し込み下さい。

★神戸百店会の事務局は月刊神戸っ子編集室内にあります。

★発行／神戸っ子NO・147
48年7月1日
★編集・発行／小泉康夫
★発行所・神戸っ子編集室
神戸市生田区東町113の1
大神ビル8階
〒(331) 2246(代)
振替口座　神戸四五一九六
須価200円

神戸のうまいもんとドリンキング

★日本料理

阿なご寿司　青辰
神戸市生田区元町通3－184
TEL 331－3435

讃岐名代うどん　あこや亭
神戸市葺合区旗塚通7－5　TEL 231－6300
トアロード店　TEL 391－2538
兵庫駅前店　TEL 575－5306

和食　くれない
三宮生田新道浜側中央
KCBビル2F　TEL 331－0494

かっぽう　花くま
神戸市生田区花隅町45
TEL 341－0240

鍋もの・おむすび
お茶漬・炉ばた　悟味酉
神戸市生田区北長狭通1の20　TEL331－3848
三宮さんちかタウン　TEL391－5319

お茶漬・おむすび
鍋もの　ふる里
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331－5535

たこ焼　たちばな
三宮センター街(旧柳筋)　TEL 331－0572

和風料理　楽樹
神戸市生田区下山手通3丁目41
トアロード西筋淡路交通入る　TEL 391－8649

料亭　大しま
葺合区熊内町6丁目39の6
TEL 221－1360・1945

寿司　ミハラ
神戸市生田区元町通1丁目12
TEL 391－3155

北海道郷土料理　蝦夷
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門筋東門会館ビル1階
TEL331－7770

★西洋料理

レストラン
ティーパーラー　アポロン
神戸市葺合区八幡通5丁目6
TEL 251－3231

レストラン　皮〈あらかわ〉
神戸市生田区中山手2－9
TEL221－8547・231－3315

GALLERY &
STEAK HOUSE　SAN－MON 三門
神戸市生田区中山手通二丁目98ノ99
YMCA西側筋入る　TEL 331－5817

ステーキハウス　れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331－7168

レストラン　男爵
神戸市生田区中山手1－18
山手第一ビル1F　TEL 241－0778

maison de
la mode　花屋敷
三宮フラワーロード市役所前
TEL 251－2109

鉄板グリル　きゃんどる
神戸市生田区北長狭通2－22
TEL 331－1183

レストラン　キングスアームス
神戸市葺合区磯辺通4－61
TEL 221－3774

居酒屋風
れすとらん　井戸のある家
生田新道新世紀南
TEL 331－5664

レストラン　ムーンライト
三宮・生田新道
TEL 331－9554

串かつ店　和蘭屋
三宮相互タクシー北入
TEL 321－0230

グリル・鉄板焼　月
神戸市生田区北長狭通1－24
生田神社前　TEL 331－2509

BARBECUE
& STEAK　六段
生田区元町通3丁目
TEL 331－2108

イタリア料理　ドンナロイヤ
神戸市生田区明石町32
明海ビル地階　TEL 331－7158

レストラン　ハイウェイ
神戸市生田区下山手2－20
TEL 331－7622

ピッツアハウス　ピノッキオ
神戸市生田区中山手2－101
TEL 331－3545

レストラン　フック東店
神戸市生田区栄町1－5－3
TEL 321－3207

ピザ&
スパゲティ　ガルの店
葺合区琴緒町5丁目1－7
西山ビル1F　TEL241－9025

レストラン　ミリオナークラブ
生田区山本通2丁目50の2
レストラン 231－9393～5
メンバーズ　221－1162

メキシコ小料理亭　ティファーナ
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F
TEL 242－0043

★喫茶

フォーク
ウエスタン　ローストシティ
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331－3770

宮水の
コーヒー　にしむら珈琲店
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221－1872・231－9524
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391－0669

modern Jazz
& Coffee　さりげなく
生田区北長狭2－22　TEL 331－9762

喫茶・レストラン　バロン
神戸三宮サンプラザ地下　TEL 391－1758
トアロード店　TEL 391－1210

喫茶　ガーディニア
神戸市生田区東町113－1 大神ビル1F
TEL 321－5114

★club

クラブ　阿以子
神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 331－6069

club　飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331－7627

エドワーズ倶楽部
神戸市生田区北長狭通1丁目28
ホワイトローズビル5・6F　生田新道　TEL 391－3300

club　小万
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391－0638・4386

club　さち
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331－7120

クラブ　佐久間
神戸市生田区東門筋ビウスタウンビル3F
TEL.321－2226～7

クラブ　千
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391－1077

洋酒肆　仏蘭西屋
三宮生田新道相互タクシー北入る
TEL 321－0230

club　なぎさ
神戸市生田区北長狭通2の1　TEL 331－8626

club　蕗〈ふき〉
神戸市生田区下山手通2丁目　TEL 391－1515

くらぶ　ぶーげん
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331－8593

club
BAR　Moon Light
BAR　TEL 331－0886・391－2696
Club　TEL 331－0157

クラブ　るふらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53　TEL 331－2854

クラブ　佐久間
神戸市生田区下山手通1丁目5 ゼウスタウンビル3F
TEL 321－2226～7

★STAND & SNACK

スタンド　英国屋
生田区下山手通2－6　相互タクシー横
TEL 331－1100・331－6600

スナック　エルソタノ
神戸市生田区下山手通　TEL 331－6620

スタンド　グラムール
生田筋岸ビル地階　TEL 331－4637

SNACK　MATSUMOTO
神戸市生田区中山手通1丁目32ノ3
曽根ビル1F　TEL 241－5470

カクテルラウンジ　サヴォイ
高架山側　テキの店北
TEL 331－2615

スタンド　さりげなく
生田区下山手通2丁目31
生田筋上高地西入る　TEL 331－3714

洋酒ハウス　雑貨屋
神戸市生田区下山手通2丁目
PHONE　078－321－0860

スナック　ビジービー
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391－4582

居酒屋　ボルドー
生田新道浜側中央KCBビルB1F
TEL 331－3575

スナック　シーザー
生田神社西門伊藤ビル地下
TEL 331－1429

洋酒の店　キャンティ
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391－3060・391－3010

スープとパン店　キャンティ北店
神戸市生田区下山手通3丁目8－9 TEL 331－3661

DRINK
SNACK　スネカジリっ子
神戸市生田区下山手通2丁目
永晃ビルB1　TEL 391－8708

Stand&Snack
ティー&ドリンク　サントノーレ
生田区下山手通2丁目トア・ロード
TEL 391－3822

素舌洞　でっさん
神戸市生田区北長狭通1丁目
源平寿司3階

STAND　アトラス
生田区中山手通1丁目95
TEL 331－5433

STAND　FANFAN
神戸市生田区下山手通2丁目29
TEL 391－1410

スナック　GASTRO
神戸市生田区中山手通3－20
トーアマンション　TEL 231－0723

スタンド　クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F　TEL 391－3329

SNACK　山の手
神戸市生田区中山手通1丁目
ソネビル1F　TEL 221－3637

淳子の店　娑羅(SARA)
生田区中山手1丁目91
TEL 391－1647

サロン　アルバトロス
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ1F－B　TEL(231)3300

スペイン風　薔薇園
生田区東門筋東門ヴィレッジB1
TEL 331－0708

snack　MORE MORE
神戸市生田区中山手通1丁目107
TEL 391－4162

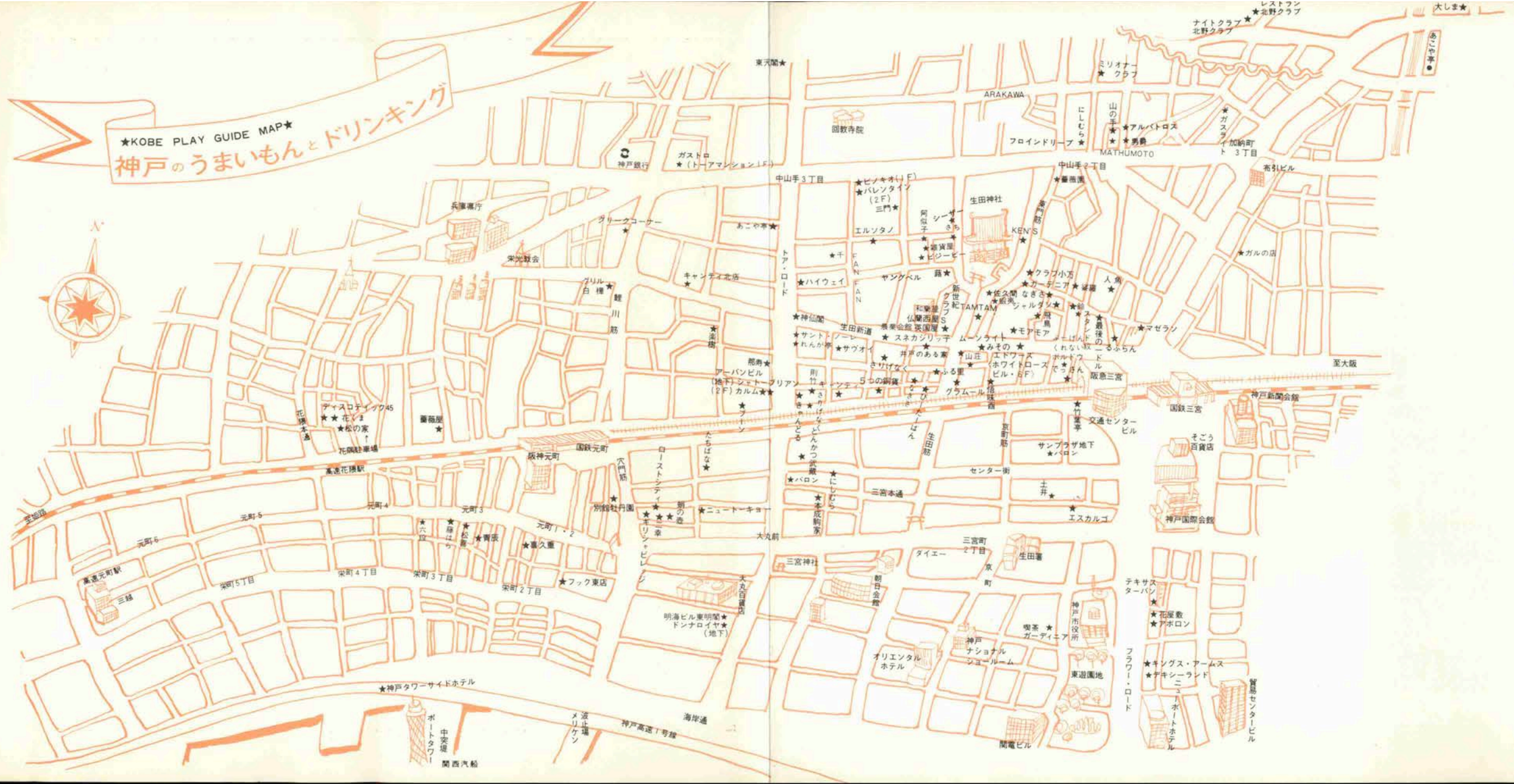
スナック　山荘
神戸市生田区北長峡通1丁目22
TEL 391－5823

SNACK & DRINK　ガスライト
神戸市生田区加納町3丁目1番地61
TEL 241－7724

スタンド　紋
神戸市生田区北長狭通1丁目41－1レンガ筋
TEL 331－8858

★KOBE PLAY GUIDE MAP★

神戸のうまいもんとドリンキング



気ままな週末
サンドパイパー（いそしぎ）は
アダルトなあなたの
BOUTIQUEです
イタリアのデザイナー
ジャン・ルフィニが
ウイークエンドウェアとして
発表した
“ニックニック”をはじめ
心ときめく
ファッションが
いっぱいです
nik·nik
THE LADY
SANDPIPER
神戸市生田区三宮一丁目 サンプラザビル3F TEL 078—321—5089

夏の宵はくらぶ佐久間で憩いのひとときを

セカンドママの和子さん

くらぶ
佐久間

ママ　米田陽子

神戸・生田区
東門筋ゼウスタウン3F
Tel.321－2226～7
年中無休
P.M.6：00～P.M.11：00

欧風のインテリア

流れる音楽に包まれて

安らぎのひとときを　ジョリカで

SCHÖNBRUNN DER

Jolica

SCHÖNBRUNN DER Jolica

ティータイム〔AM11:00～PM 6 :00〕

シックなムードで心やわらげるドリンクを……

ワイン&スナックタイム〔PM 6 :00～12:00〕

高級洋酒各種　オードブル各種　軽いお食事もできます。

定休日　毎週水曜日

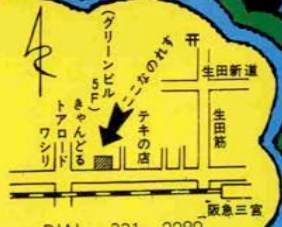
神戸市東灘区御影町3丁目　メゾン新御影（御影公会堂前）☎078－841－3591

夜の遊ぶ学校なのれす！

低能学級

秀才学級

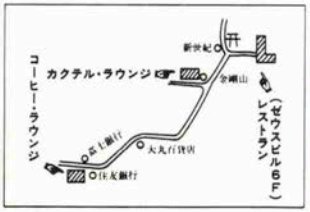
悪(あく)たれ学校



DIAL 331－2289

花紅し　柳　緑　音を音と聴き　響きをひびきと
伝えてくれる　言葉のいらない　華麗な……　花　緑

レストラン花緑ゼウス



レストラン　☎ 331－5108
コーヒー　☎ 391－3459
カクテル　☎ 331－7604

株式会社
花緑

ドリンク・レストラン
テントウヤ
點燈屋

生田区中山手通１丁目
れいんぼうビル地階
☎ 331－0393

DRINK & SNACK
スネカジリッ子

生田区下山手通２丁目30
永晃ビル地階
☎ 391－8708

KOBE DRINKING GUIDE

スタンド紋

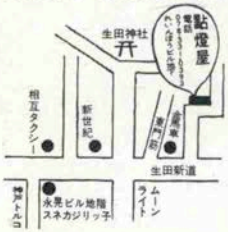
生田区北長狭通１丁目
41－１レンガ筋
☎ 331－8858

スペイン風
薔薇園

生田区中山手通１丁目72
東門ヴィレッジ地階
☎ 331－0708

★點燈屋とは、夕暮れどきに〈瓦斯燈に灯を點して廻る人〉のことです。それをシンボライズしたのが**"點燈屋"**のマークです。昔、點燈屋が巷巷に灯をともしてまわったように、"點燈屋"は〈心に安ぎを与える店〉〈しあわせを配る——〉を念願としております。鮮やかな黄色のテントのある、れいんぼうビルの地下、ゴージャスな感じの扉を開けると、そこは、落ち着いた雰囲気と気品のある"點燈屋"の小宇宙です。ゆったりとした気分でグラスを傾けるもよし、お食事をたのしむもよし、夏の一宵、點燈屋が瓦斯燈をともしてまわった昔に思いを馳せながら、あなただけの時間をおたのしみください。奥にはボックス席もあります。

☆ビール¥300　フイズもの¥400から　オムレツ¥400
ハンバーグステーキ¥500　ナベヤキうどん¥500
6:00P.M.～2:00A.M.　第1・第3日曜日定休



テントウヤ

★いつもゆかいな仲間の集まる店。それが**"スネカジリッ子"**です。スネカジリッ子のような彼も彼女も、いつもゴキゲンになる店。それが"スネカジリッ子"です。カウンターをはさんで、店の陽気な面々とダベるのも、また、奥のボックス席で、カップルで、あるいは、グループで夏のひとときをたのしむのも"スネカジリッ子"ならではのたのしさです。豪華なインテリアに囲まれたスペースでの、軽やかなおしゃべりと、口あたりのよい飲みものと、ちょっとしたお食事とで、あなたは、たちまち、時間のたつのもわすれてしまいます。若者を自認するなら"スネカジリッ子"へ行こう！

☆水割G＆G¥300　ビール(小)¥250　おつまみ¥100　ピッツア¥350
ミニチュアビン(W)¥500
5:30P.M.～1:00A.M.　第1・第3月曜日定休

スネカジリッ子

KOBE
DRINKING
GUIDE

スタンド"紋"

★生田新道山側を東へ歩くと、左手にレンガ畳の続く道、レンガ筋があります。そこをちょっと入った左手に**スタンド"紋"**があるのです。常連の方々には、ますます店を好きになっていただきたい、一度こられた方には、それっきりではなくて、これからも訪れてくださることを。それがスタンド"紋"の願いです。店のメンバーは、店を訪れられるひとりひとりの方に心から喜んでもらえるようにと常に心を配っております。メンバーのひとりひとりに個性があり、グラスを傾けながらともに語るもよし、仲間と一緒に飲むもよし、いつ来られてもゆったりとしたひとときをお過ごしいただけますように心を配っております。

☆フイズ¥400　ビール(中)¥400
6:00P.M.～1:00A.M.　第2・第4日曜日定休

薔　薇　園

★東門ビィレッジを地下へおりると、そこに**"薔薇園"**の瀟洒な扉がある。一歩足を踏み入れると、そこはスペイン風の落ち着いた小ルーム。饒舌な装飾を拒否したなかに、おとなの雰囲気とさりげないきどりがある。漆喰の白壁に掛けられた古地図。山小屋風の木材の荒い肌とレンガのくすんだ色調。古風なランプの鈍い輝き。豊潤な薔薇の香りのなかに乙女たちがつつましやかに微笑みかける。ママの自慢はスペイン風の造りとカウンターの向こうに居並ぶ面々がいずれ劣らぬ美人であること。シックなおとなのムードを好むあなたのために薔薇園があるのです。

☆水割(オールド)¥400　(毎土曜日には同価格でスコッチを楽しんでいただけます)　ビール¥300　その他各種ドリンクをエコノミカルな料金でご奉仕いたしております。
P.M.6：00～A.M.12：00　日曜定休